

安寧



新年万燈祭・前川英昭氏撮影

明治維新百五十年の平成三十年、
 当社はご鎮座八十年を迎えます

兵庫縣姫路護國神社報
 「安寧」第十六号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒671-0023 姫路市本町一八
 電話 〇七九一三四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なところ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英霊の言乃葉

父母への便り

陸軍看護婦 山野清子 命

昭和二十年七月十日
 ファイリピンルソン島にて戦病死
 三重県出身 十九歳

十字星を窓から見て泣いた時、世に高いマニ
 ラの夕焼けにはるかな故國をしのび、帰りたく
 なった時だつてあります。幼い子を見る時、
 洋司を思ひが走ります。

年若くして國を離れる、これは、これからの
 長い清子の人生に大きな役をしてくれるでせう。
 清子は身体の続く限り白衣の人として生きるつ
 もりです。ここは第一線だ、戦場だと働きがひ
 を全身に感じ、すべてを忘れてしまひます。

清子は山野の家を代表した女の勇士です。
 皆様に心配させるやうなことは致しません。
 身体の続く限り働きます。

靖國の宮で………。

皆様の御健康御多幸を祈ります。



春季慰霊大祭齋行

(五月二日午前十時三十分)



大祭参列者

五月二日晴天に恵まれた緑鮮やかな境内に大テントが張られ、六百五十名の参列者を迎えて十時三十分定刻どおり宮司以下祭員、参列者代表(大祭委員長・兵庫県遺族会長・崇敬奉賛会会長など)が参進した。本殿に拝礼の後、市民合唱団の先導により、国歌が斉唱され、修祓式に続いて数々の神饌が供えられた。また淡交会西播磨支部幹事長太上天宗宏氏、西播磨青年部長水田典秀氏をはじめ支部有志により心をこめて点てられたお抹茶がそなえられ、宮司が祝詞を奏上した。祭文は大祭委員長、兵庫県遺族会長、崇敬奉賛会会長が続いて奏上、神賑行事として福田賀徳陽、北村鯉杏、富士原浩山各氏により、「捧護国英霊」と題する詩舞が奉納された。続いて代表参列者の玉串奉奠が行われ、厳粛なうちにも盛大に執り行われた。

崇敬奉賛会総会開催

(四月二十日午前十一時)



挨拶する三宅会長

まず本殿にて会員安泰祈願祭を齋行。三宅知行会長が会員の安泰と崇敬奉賛会の発展を祈って役員とともに参拝、つづいて和やかに写真撮影をした。

場所を会館に移して戸井田運営委員司会のもと総会が始まった。開会の辞は釜谷副会長が宣言、国歌斉唱に続いて会長が前年度の概要を報告し協力に感謝を申し述べた。宮司の挨拶ののち会則に則って会長が議長に選任され議事に移った。

まず三木運営委員長によって二十七年年度の事業報告及び決算報告(表参照)が続いて監査報告がなされ全会一致で承認。次に二十八年年度事業計画と予算案が上程され承認された。五号議案として役員追加変更が提出され異議なく可決された。

大川副会長(総代会会長)によって閉会

が宣言され直会に移った。直会は阿比野運営委員によって和やかに進められ、中盤では三木委員長を中心にさまざまな感想や意見が述べられた。にぎやかなうちにも今後の崇敬奉賛会の行く末に期待が込められ岸野県遺族会長が閉会の辞をのべて有意義な総会の幕を閉じた。

〈平成二十七年度 事業報告〉

兵庫縣姫路護國神社の創祀の意義を広く伝え、世代を超えて英霊に感謝と報恩の誠を捧げる祭祀の永続に尽くすため、奉賛会を設立した。

今日の荒廃した精神状況に対しても、英霊の克己・献身の事跡とその精神を知らしめることが、生命の尊厳への認識と、父祖の世代への感謝の心を醸成し、我が国の伝統的道義・道徳心を取り戻す教育的役割を果たすものであると確信する。本年は、目的達成のため次の事業を行った。

- 一、総会を四月二十日に執行した。
- 二、会員増強に努め、法人会員二十四口、個人会員二百四十一口、終身会員九口、賛助会員十五口であった。
- 三、社報を二回(五月二日春大祭・十一月二日秋大祭)各五千部十三く十四号を発行した。
- 四、大東亜戦争終結七十年にあたり、五月三十一日、井上和彦氏の講演を実施し三百名の参加を得た。

〈平成二十七年度 決算報告〉

(収入の部) 平成26年4月1日～平成27年3月31日

予算項目	決算額	内 容
繰越金	3,914,755	
会費収入	2,557,500	法人24口120万 個人241口75万7千 終身会員9口45万5百 賛助会員15口15万
雑収入	765,446	新年祈願祭参加費・井上和氏講演会・栗永氏講演会・受取利息・本販売手数料等
収入合計	7,237,701	

支出項目	決算額	内 容
神社奉納金	352,349	神社奉納金
事業費	2,254,225	社報発行及び発送・英霊感謝祭・井上和彦氏及び戦士の証言講演会・新年祈願祭・その他
事務費	100,000	崇敬奉賛会運営事務費 神社会計へ繰り入れ
会議費	352,349	総会・運営委員会
雑費	39,566	振替手数料、残高証明書、IB基本料
予備費	0	
次年度へ繰越金	3,491,561	
支出合計	7,237,701	

- 五、終戦記念日に英霊感謝の集いを執行し、「英霊の言乃葉」朗読 現職ラッパ手による演奏、解説、正午の黙祷などを実施し百五十名の参加者を得た。
- 六、神社の臨時大祭に協賛し、参拝者八百名を対象に高清水有子氏の講演を実施した。
- 七、新年祈願祭を一月十一日に執行し七十名の参加者を得てご皇室の弥栄と国家国民の安寧、会員の安泰を祈願した。併せて井上四郎氏を招き第四回「戦士の証言」講演会を開催した。
- 八、三月六日に海軍航空隊に志願し、生還された栗永照彦氏を招き第五回「戦士の証言」講演会を開催し、七十五名の参加者を得た。
- 九、運営委員会を第三十八回から第四十八回まで十一回開催し、崇敬奉賛会の催しの企画、社報の編集、会員増強の方策等を議論し実行した。

第五回 戦士の証言 祖國の誇り

元特攻隊員 栗永照彦氏



参拝する栗永氏。兵庫県出身の白鷺隊員も祀られている

事をきつかけに、子や孫たちのために、日本の将来のために話をしなければ、と考えが変わったという。

「終戦時にいた百里（ひゃくり）を出てから、ずっと心の中でひっかかっているものがあつた」と講演を始めた。昭和十八年、栗永氏が十五歳のとき、第十三期甲種飛行予科練習生として愛媛県・松山海軍航空隊に入隊。予科練の課程を修了後、上海海軍航空隊へ入隊し、第三十八期飛行術練習生の偵察課程へ進んだ。昭和二十年三月中旬、青島海軍航空隊で偵察過程を卒業し、加西にあつた姫路海軍航空隊へ入隊することになった。

青島から加西に向かう途中、下関駅のプラットフォームに立ったとき、内地の人々のただならぬ様子に気づき、「いよいよ迫ってきたんだな」と感じ取ったという。

鶴野に到着し、そこで飛行長から姫路海軍航空隊が特攻隊に編成されていることが伝えられた。このとき、「長男や病氣などの理由あるならば特攻隊に志願しなくてよい」とも言われた。しかし、栗永氏は下関駅で見た光景が頭から離れず、「このままではいかん」と

いう思いから特攻隊へ志願。特攻隊は姫路城の別名、白鷺城にちなんで、「白鷺隊（はくろたい）」と名付けられた。鶴野での滞在はわずか一週間もなかったが、操縦員たちは急降下の訓練、電信員だった栗永氏たちは機上の操作訓練など、猛特訓の様子をお話しになった。その後、白鷺隊は宇佐（大分県）、さらに出撃の地、串良（鹿児島県）へ移動。隊の中では栗永氏が最年少（当時十八歳）ということもあり、特攻出撃が始まる前々日まで、食事などの年上の隊員たちのお世話に気を遣っておられたという。

また、白鷺隊の隊長をつとめた最年長の佐藤清・海軍大尉（当時三十七歳）のことも触れ、出撃前の「みんな、俺についてこい。」との言葉が忘れられず、急ごしらえの練習航空隊で特攻隊が編成されたことを考えると、「あの佐藤隊長の言葉は親心だったんだな。いたわりだったと思う」とふりかえった。

栗永氏自身も、昭和二十年五月四日、特攻出撃したがエンジン不調により、種子島に不時着した。さらに七日後の五月十一日にも出撃したが、エンジン不調により帰投。

昭和二十年五月下旬、茨城県・百里ヶ原海軍航空隊へ転隊し、そこで終戦を迎えた。戦後、郷里の香川県の中学校教諭をつとめ、定年退職。その後、約十年間にわたり香南町の教育長をつとめた。

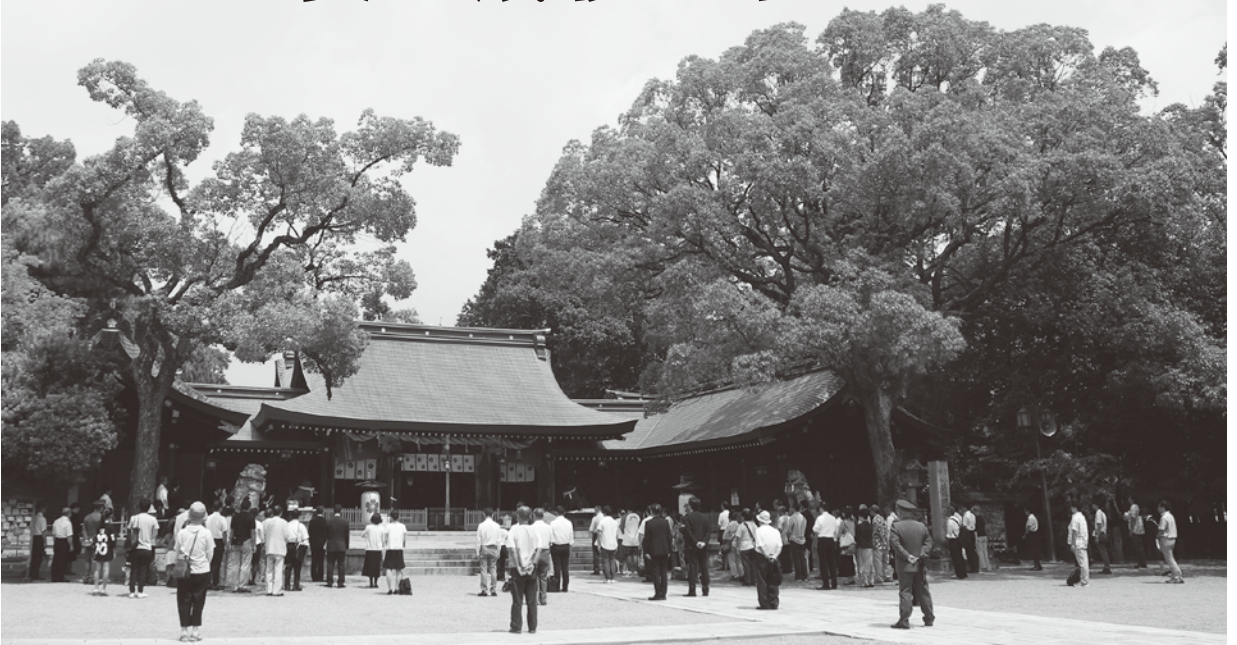
栗永氏は靖國神社や地域の護國神社について、「靖國神社や護國神社は国を支えた人の魂や願いがまつている。亡くなられた方だけでなく、その方の奥様やお母様の心を支える場所でもある。みんなの気持ちで靖國神社や護國神社に向かうことで、支えられる。大事にしてほしい」と話す一方、「日本人は何か大切なものを失っていると感じる。時代が流れて、自分自身もそれを失っていると思った。それは情理ではないか」と現代の私たちへの問いかけもあつた。

最後に、「祖國を守るために、みんな亡くなった。それを忘れないでほしい。当時のことを正しく知り、失いつつある日本人の心を一緒に取り戻しましょう」と講演をしめくくった。（文責 深田真史）



講演中の栗永氏

8月15日 英靈感謝祭 英靈顕彰の集い



正午の黙祷のために境内に集まる参拝者

七十一回目の終戦記念日を迎えた八月十五日、兵庫縣姫路護國神社にて恒例となった「英靈感謝祭」が崇敬奉賛会主催で行われた。午前十時より本殿にて神事が厳粛にとりおこなわれた後、会場を一旦、護國神社会館へ、元第三四三海軍航空隊少尉本田稔氏の講演VTRの放映が行われた。

正午が近づき、会場を再び社頭へと移し、日本武道館で行われていた「全国戦没者追悼式」の式次第に合わせ、内閣総理大臣の式辞、黙祷、そして、天皇陛下のお言葉を拝聴した。また、黙祷に合わせ、旧軍出身の林好夫氏による「國の鎮め」のラッパ吹奏が奉納された。引き続き、陸上自衛隊の皆さんによる、ラッパ吹奏も行われ、日ごろ自衛隊の生活の中で使われる「起床、点呼、食事、気をつけ、君が代、休め、課業開始、修了、消灯」それぞれの曲をご披露いただいた後、陸海、空、各自衛隊の代表者の参拝に合わせ、「國の鎮め」が演奏された。

その後、昼休憩となり、境内では有志により、冷やしうどん、いなりずし、かき氷が振る舞われ、暑い日差しの中、多くの方々が境内のあちこちで涼をとる姿が見られた。

英靈感謝祭は午後の部へと入り、「英靈の言乃葉」の朗読が行われた。



林好夫氏のラッパ吹奏



神事

家族や恋人、子どもへ向けて綴られた十六篇を、遺書を残したご英霊と年齢の近い青年役員が心を込めて朗読すると、聴衆の中には、涙をぬぐう方もおられ、アンケートでも改めて先人が命を懸けて遺してくれた平和の尊さを感じたとの感想もいただいた。

その後、元航空自衛官でブルーインパルスの編隊長を務められた岡本俊基氏に「元空自戦闘機パイロットのよもやま話」と題しての講演をいただき、航空自衛隊での思い出話や日本が置かれている現状、また、普段は聞くことのできないブルーインパルスの裏話などを映像や資料を使



自衛官の参拝



英霊の言乃葉朗読 1



講演



英霊の言乃葉朗読 2

い、お話しいただいた。参加者からも普段は固くなりがちで国防の話も軽妙な語り口でわかりやすく楽しく聞けたと好評をいただき、有意義な講演となった。

英霊感謝祭の最後は恒例となった「日本を歌う」。尼子美保さんのピアノ、前川美加さんのバイオリン、それぞれの伴奏に合わせ、選曲された「愛国行進曲」「加藤隼戦闘隊」「蛍の光」「櫻井の別れ」「海ゆかば」といった戦前、戦中に愛唱歌として知られながら、戦後、歌われなくなってしまう美しい歌五曲を全員で合唱した。年配の参加者は懐かしそうに、若い世代も初めて聞くメロディーに戸惑

いながらも、周囲に押されるように歌われていたのが印象深く、失われた機会に世代を超えて受け継がれる良い機会となることを実感した。

最後は、三木英一崇敬奉賛会運営委員長の挨拶があり、今年の英霊感謝祭を無事に終えることができた。今年、のべ三百人ほどの方に参加いただけました。

今後も、多くの皆さんの協力を得て、この英霊感謝祭を続け、ご英霊の顕彰について、たくさんの方々の方々の賛同を得られるよう活動していきたい。

(文責 戸井田真太郎)



日本を歌う

シリーズ 英霊の戦場(七)

播磨に誕生した

戦車第六聯隊の比島防衛戦

創設

昭和十三年のノモンハン事件及び欧州での戦車戦の様相から陸軍も中重戦車の必要性を認識して直ちに戦車隊の創設に着手。

戦車第六聯隊は昭和十四年七月編成下令、同年十一月姫路駐屯地に基幹要員集結、昭和十五年四月青野原台地（現自衛隊青野原演習場）南端に戦車教育隊の隊舎完成により移駐、九四式軽戦車（通称豆タンク）一箇中隊・九七式戦車三箇中隊と整備一箇中隊編制で日夜猛訓練により精銳戦車隊が誕生、昭和十六年十月広東に移駐、十二月カムラン湾船上にて開戦の報に接し直ちにマレー半島のシンゴラに上陸（第二十五軍山下奉文中将指揮下）

付記

青野原戦車教育隊では昭和十七年創設の戦車第十九聯隊に戦後歴史小説家となった司馬遼太郎氏が青年将校として錬成訓練に従事、昭和二十年創設の戦車第四十二聯隊と共に本土決戦部隊であった為、参戦の機会なく終戦を迎えた。

大東亜戦争緒戦の活躍

第二十五軍のマレー半島南下作戦は英印軍の戦闘意欲の低下と相まって快進撃を続けた。スリム地区でとん挫した快進撃は戦車隊のみの夜襲による敵陣突破が功を弄して以後、一挙にシンガポールまで達した。戦車聯隊はシンガポール攻略中、敵の反撃を再三阻止する等武勳赫々たる戦果を上げ軍司令官からの感状を受け、昭和十七年四月満州に移駐を命ぜられ、爾後ソ満国境警備の任に就く。

比島防衛戦に参戦

マッカーサー將軍率いる米軍はレイテ島（昭和十九年十月上陸）を奪取し、同島を足掛かりに比島攻略を企てていたが、日本軍は同島を決戦場とし、次々比島から精銳部隊を送り込んだが輸送作戦に失敗し、敗北した。米軍も占領に手古摺り、占領未完のまま昭和二十年一月九日比島本島リンガエン湾とマニラ湾に上陸を開始した。

比島の防衛力が手薄になった為、日本本土からの増援部隊の切り札として戦車第六聯隊は戦車第二師団三箇聯隊の一つとして昭和十九年八月比島第十四方面軍（山下奉文大将）の戦闘序列を下令、同年十月陸海軍の全面協力が無事比島に上陸した。

第六聯隊の第一中隊（軽戦車）は直ちにレイテ島へ派遣されたが、火炮や弾薬車及び補給車の牽引に使用され米軍の格好の攻撃目標となり全滅した。

ムニオスの戦闘（地図1・2参照※○は地名番号）

聯隊主力は上陸後マニラ周辺の航空基地・交通路の警戒及び反撃の拠点とする山麓で陣地構築等の任務に就いていたが米軍のリンガエン湾上陸後、米軍進撃路となる交通の要点であるムニオス町①にて防御態勢を構築すべく任務を与えられて昭和二十年一月二十六日同町に到着。

ムニオス町の概要

町は東西約五百米、南北約千五百米で交通の要点らしく整然とした街並みであった。住居を含む各施設の周囲は背丈のある常緑樹で囲まれ陣地や戦車の隠蔽敵に有利であった。然し東西は水田に囲まれており地下水位が浅く一米掘ると湧水、又住民は先遣隊の避難指示等で無人となっていた。

第二中隊はウミンガン②にて一月二十七日から師団防御陣地の間隙を埋めるために野砲中隊と配備についていたが、包囲され歩兵の未配属弱点を突かれ奮闘するも三十一日終に力尽きた。

ムニオスでは聯隊長井田大佐は我が戦車では米軍戦

車M4に対抗不可と考え掩体^{カモフラージュ}を掘って砲塔のみを地面に出すトーチカ方式を採用、又砲爆撃に耐えるよう戦車の真下に掩体を掘って備えた。

二月一日 米軍第六師団は猛烈な攻撃準備射撃をもって戦闘を開始した。先ず我が前進陣地（二箇小隊）の壊滅を狙って突撃してきた。我が軍は歩兵を引き付けて一挙に反撃して撃退したが、暴露した陣地（戦車）は集中砲撃を受けて次々炎上し、戦車を失った将兵は敵の野砲陣地に切り込み火炮三門を破壊したが、衆寡敵せず陣地は突破されてしまった。

二月二日 井田大佐は前進陣地を突破した米軍は正面攻撃か迂回作戦かを見極めるため砲撃下に壕から出たところ砲弾破片を胸部に受け戦死。正面攻撃の矢面となった第三中隊は熾烈な攻撃準備射撃に耐え、歩兵の攻撃を陣前まで引き付けて全火器による集中射撃を以て阻止した。全弾打ち尽くし弾薬の補充を要請中、戦車十両を伴う攻撃を受けたが陣地突破を阻止した。但し、この日は後方拠点も同時に砲撃され被害は甚大となった。

二月三日 米軍は戦車を伴う二箇大隊をもって砲迫射撃支援の下、同時攻撃を実施。この時米軍M4戦車数両が線路を跨ぐの発見、直ちに弱点であるキヤタピラを狙って射撃を行い二両を擱座、一両は戦車兵が逃走の戦果を得たが其の為暴露した我が戦車は次々と破壊された。この日も頑強な抵抗により米軍の前進を概ね阻止した。然し、戦車の半数近くを破壊された聯隊長代理高橋少佐は師団本部に転進の必要性を具申したところ、師団長から「死守せよ」の命令が届く、覚悟した少佐は各陣地に弾薬の集積を命じた。

二月四日 陣地を突破出来ないと焦った米軍は歩兵三箇大隊・野砲三箇大隊を投入して一挙に日本軍陣地を覆滅すべく陣地らしい地点を絶え間なく砲撃し、歩兵の突撃を試みたが「死守」を決意した聯隊は残存火器のすべてを使用して撃退した。

次々破壊される戦車を見た将兵は戦車による逆襲を

試みたが失敗。米軍側も包囲されながら頑強に抵抗する日本軍の強靱さに「脅威を感じた」と戦史に記されている。

二月五日 米軍は昨日に引き続き包囲攻撃を開始した。昨夜の豪雨で泥濘化した戦場は米軍側に不利となり、日本軍の反撃で戦線は膠着状況となった。日本軍も夜襲好機と準備をして待機したが米軍側も警戒を厳重にしており、不成功に終わる。

二月六日 米軍はこの日も攻撃準備射撃を絶え間なく実施して、浸透攻撃を繰り返したがその都度集中反撃で撃退に成功。十時頃師団長から「転進」(撤退)の命令が届く、高橋少佐は綿密な脱出計画を立案し、深夜決行まで準備と予行を徹底させた。

二月七日 米軍は此の日、激しく抵抗され突破出来ない焦りから戦闘爆撃隊によるナパーム弾攻撃を企図していたが、昨夜から聯隊の脱出を察知し照明弾を打ち上げ、戦車・野砲・自動車等を全て破壊した。時期を逸した脱出は多くの戦死者(約二五〇名)と戦車等

を失う結果となった。歩兵化した聯隊将兵は持てる限りの火器弾薬を背負い、負傷兵を元気づけてゲリラを警戒しながら密林の中へ撤退に成功、疲労困憊しながら三月六日イムガン③に到着した。

戦車喪失後の戦歴(守備部隊の一部隊として)イムガンの戦闘(三月七日〜五月二十九日)サラクサク峠を越えてサンタフェへ進撃する米軍を強靱な陣地構築と巧みな戦法で阻止、米軍は終に進撃方向をバレテ峠に変更させることとなった。

サラナス峠の戦闘(六月三日〜十九日)バレテ峠を突破した米軍は次のサラナス峠④の日本軍陣地に猛烈な砲爆撃を加えた。強靱な陣地構築に適さない地形と梱包爆薬や小火器しかない日本軍は終始苦戦を強いられた。玉砕を覚悟した指揮官を説得して日本軍の拠点陣地であるプログ山麓のアンチポロ⑤に撤退を決行。

アンチポロの戦闘(七月二十三日〜八月二十二日)密林の道なき道をかき分け、病や飢餓に苦しみながら疲労困憊して到着、ゲリラや米軍の掃討戦を巧みにかわしながら持久戦に、幸い清水が湧き野生の動植物を捕獲しながら命をつなぐ、八月十六日終戦を知

らされる。九月十五日武装解除、十一月十一日生還者帰国。

(注) 暴露：戦車や野砲が発砲することにより所在が露見

隠蔽：隠れ且つ敵から見えない遮蔽物がある

掩護：戦車が乗り上げて動けなくなることを

体：射手を防護する設備を持ち且つ射撃を容易にする壕

出典：第五中隊長 指宿正春元陸軍大尉著

「戦車第八聯隊比島戦記」(生還者)

米軍戦記等は防衛庁戦史叢書

聯隊の人員損耗状況

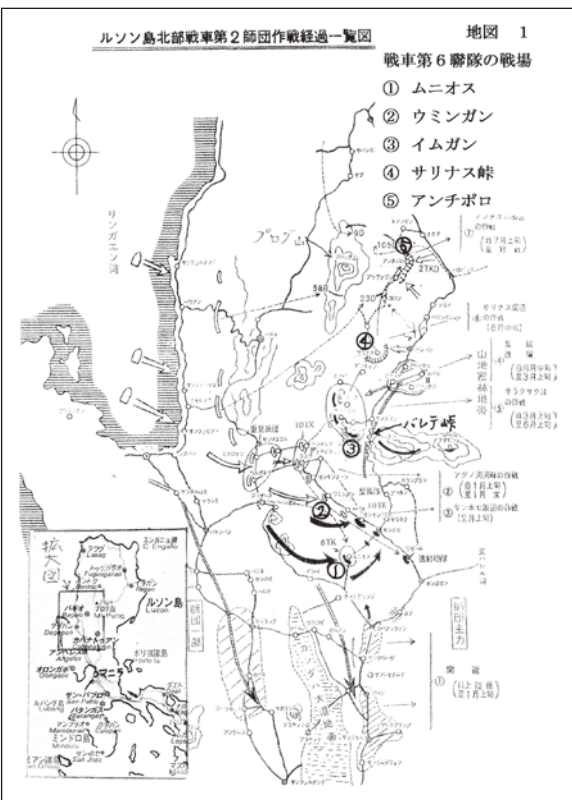
総人員九二〇名 戦死者八六八名 生還者五二名

姫路護國神社に祀られている英霊 九五柱

戦車隊慰霊の碑

昭和四十九年十一月生還者と遺族で旧戦車隊正門跡地に建立。平成十年頃まで慰霊祭が行われていた。(戦車隊施設は戦後、国立療養所が利用していたが近年小野市に新療養所が建設により移転、跡地は現在不動産業者が管理)

(文責 曾田孝一郎)



青野ヶ原 戦車隊之碑

日誌抄

二十八年四月、
二十八年八月

平成二十八年

- 四月一日 泉権補員就任奉告祭 大寮案内状発送
- 四月七日 崇敬奉賛会運営委員会
- 四月八日 三宅崇敬奉賛会長宮司面談
- 四月十九日 姫路市遺族会総会宮司出席
- 四月二十日 崇敬奉賛会祈願祭・総会
- 四月二十三日 隊友会姫路支部総会（会誌）宮司出席
- 五月一日 春季大祭
- 五月四日 平荘神社國恩祭宮司参列
- 五月六日 兵庫縣神戸護國神社宮司獻幣使出席
- 五月七日 日本会議 講座（会誌）
- 五月十日 兵庫縣神社庁財務・教化委員会宮司出席
- 五月十二日 兵庫縣神社庁役員会宮司出席
- 五月十五日 兵庫縣神社庁役員会宮司出席
- 五月十七日 ヒルマ会慰霊祭 兵庫縣神社庁いなみ支部総会出席
- 五月十八日 兵庫縣神社庁姫路支部お田植え祭権補員出席
- 五月十八日 三田市総代会宮司出席
- 五月二十四日 崇敬奉賛会運営委員会
- 五月二十四日 神河町慰霊祭
- 五月二十五日 宮司神社本庁出席
- 五月二十八日 姫路郷友会 総会（会誌）
- 五月三十日 兵庫縣神社庁姫路支部総会
- 六月五日 青野ヶ原駐屯地四十周年権補員出席
- 六月六日 旺美会総会 湊川神社
- 六月八日 初任神職庁長講話閉校式兵庫縣神社庁
- 六月八日 兵庫縣神社庁責任役員会
- 六月九日 姫路地区神社総代会総会権補員出席
- 六月十日 神宮崇敬会会宮司出席
- 六月十日 兵庫縣神社庁教化委員会出席
- 六月十五日 兵庫県神社庁伊勢神宮
- 六月十六日 教諭師総会生田神社へ宮司出席
- 六月十八日 佐用石井地区慰霊祭
- 六月二十日 全国護國神社会正式参拝・臨時総会
- 六月二十日 霊友会清掃奉仕
- 六月三十日 大祓式
- 七月三日 安栗市波賀町慰霊祭
- 七月七日 京都府石協会会祈願祭
- 七月七日 兵庫縣神社庁合同協議会出席
- 七月八日 大年神社毛利出席
- 七月十日 湊川神社例祭宮司参列
- 七月十二日 日本調停協会名古屋大会宮司出席
- 七月十五日 日本会議講座
- 七月十六日 兵庫縣神社庁責任役員会・協議員会宮司出席
- 七月十九日 神社本庁役員会・東京宮司出席
- 七月二十日 直階補助研修講師として宮司出席
- 七月二十九日 直階検定講習会開講式及び講話宮司出席
- 七月三十日 現任神職研修(丹有)宮司出席
- 八月四日 現任神職研修職員出席
- 八月五日 高砂神社小松宮司子息結婚披露宴宮司出席
- 八月七日 現任神職研修(淡路)宮司出席
- 八月十日 城巽老人会清掃奉仕
- 八月十一日 霊友会 益隔り境内使用
- 八月十五日 英霊感謝祭

崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた
英霊を大事にしたいと思う人
先祖を敬う心を持っている人
見えないものを受け継いで
いきたいと思う人
奉賛会に入会して神社を
支えて下さい
我々と共に英霊に感謝し
そして汗をかき、
涙を流しましょう

奉賛会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町118

電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

【募集資格】

十八歳～二十五歳 未婚の女性

※高校生不可

※髪の毛の染色不可

※男性の方も若干名募集しております

年末一日間以上、一月一・二・三日に奉仕頂ける方
たくさん奉仕頂ける方を優先し採用致します。

【奉仕期間】

〈七五三〉十一月中の土・日・祝日

〈年末〉十二月二十五日～二十八日

午前九時～午後五時

〈大晦日〉十二月三十一日

午後十一時～午前十時 ※二十歳以上

〈年始〉一月一日～一月十日

午前八時～午後八時 ※うち八時間交代制

【奉仕内容】

〈七五三〉ご祈禱受付・奉仕

〈年末・年始〉清掃、迎春準備、お守り、おみくじ授与

【申込み方法】

メールにて名前・住所・電話番号・年齢・通話可能な
時間帯（午後五時まで）を明記の上、
左記メールアドレスまでお送りください。
こちらからご連絡致します。

hokoku.miko@gmail.com

【申込み締切】

十二月月上旬まで随時募集

※定員に達し次第終了



臨時奉仕者募集のお知らせ
誠実で明るい方お待ちしております